



隔週金曜日発行

Nanao 東大阪市議 中西のぶひろの
週刊なのタイムス

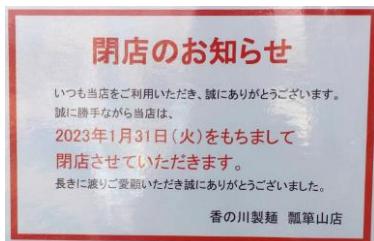
～東大阪の市政や地域情報をお伝えする～

第52号令和5年3月3日発行

発行：東大阪市議会議員 中西のぶひろ
住所：東大阪市瓢箪山町2-14
連絡先：(TEL)072-982-5127 (FAX)072-985-6972
携帯：090-8164-5857
メール：nakanishi.jimusho@gmail.com
ホームページ：https://www.nanotimes.net/

■香の川製麺が閉店！なぜ？？ ～なかなか進まない大阪瓢箪山線

外環状線神田町交差点の西南角にあった香の川製麺が、1月31日に閉店しました。<図①>流行っていたうどん屋さんだったのに突然閉店したように見えて、驚いた方もおられるかもしれません。実は、なのタイムス11号・12号でもお知らせいたように、ここは都市計画道路大阪瓢箪山線の予定地で、買収計画にあるところだったのです。<図②>府道ですので道路建設は府の仕事ですが、買収は東大阪市が所管しており、担当部局に確認したところ買収交渉は進めているものの買収はまだのことです。大阪瓢箪山線は中央環状線から外環状線まで計画され、東大阪市にとっても東西の幹線のひとつであり重要な道路です。ラグビーWカップ2019が花園で開催されるまでに東花園まで完成しました。事業認可が令和5年3月31日までですので、計画では今年度中に完成する予定でしたが、東花園から外環状線までの800mの区間は土地買収も全部終わっておらず、工事着工もできない状況です。東大阪市にとっても瓢箪山にあっても早期完成が待たれる道路ですので、モノレールの南進工事が完成予定の令和11年度までに完成を目指すように引き続き訴えてまいります。



図①閉店のお知らせ



図②都市計画道路大阪瓢箪山線

■出産・子育ての相談支援と経済支援の一体的事業がスタート！

国ではすべての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるように寄り添い、身近で相談に応じニーズに即した支援につなげができるように、伴走型相談支援と経済支援を一体的に各自治体で実施する事業をスタートしました。東大阪市では、3月1日から始まりました<図③>が、【伴走型相談支援】はこれまで①妊娠届時の面談とアンケート ②妊娠8か月ごろに助産師や保健師から「もうすぐママ電話」 ③出産後には「こんにちは赤ちゃん訪問」で面談とアンケートをしており、これをさらに充実させます。さらに経済支援としての【出産・子育て応援給付金】では、3月1日以降、申請時点で東大阪市に住所を有する人で、面談とアンケートをしたことを要件として ①妊娠出産した人に5万円 ②児童の養育者に児童一人当たり5万円が支給されます。2月28日に厚労省から発表された昨年1年間に生まれた出生数は、79万9728人で、1899年から統計を取り始めて以来初めて80万人を割り込んだということです。少子化に歯止めがかかる中でその対策は急務であり、東大阪市を「住みたいまち・住み続けたいまち」にするためにも、安心して出産子育てができるまちになるよう、これからも支援策を講じてまいります。



図③東大阪市の応援事業

【視察報告】

2月16日（木）17日（金）に、私が所属する環境産業委員会の視察で、長崎県五島市と佐賀県佐賀市に行ってまいりました。

★これからの交流が楽しみな五島市

五島市はいま放映中のNHK連続テレビドラマ「舞いあがれ！」のロケ地になった所であり、「舞いあがれ！」に関する観光施策について市役所職員の方と意見を交換しました。五島市役所での交流はわずか1時間半ほどでしたが、五島は魚が豊富で、五島牛のブランドもあり、うどんでも讃岐・稲庭とともに三大産地になっていて優れた食文化があり、ゆっくりと訪れたい風光明媚な土地でした。ドラマのお陰もあり、観光客も回復しつつあるということでしたが、本当の勝負はドラマの終わった後というのは、共通の認識でした。野口五島市長もドラマの放映前に東大阪市を訪問され、野田市長ともお会いになっているということであり、今後の両市の交流が楽しみです。次の委員会では、バラモン凧（図④）を東大阪でも定着させ凧揚げ大会を定期的に開催することを提案したいと思っています。また五島ではプラスチックごみの海洋漂着が問題になっていて、昨年10月には東大阪からの視察団も行っており、環境問題における交流も大いに可能性を感じます。



図④バラモン凧

★佐賀市は、バイオマス産業都市

佐賀市では清掃工場（図⑤）を視察いたしました。佐賀市は「バイオマス産業都市」を打ち出しており、廃棄物をエネルギーや資源として循環させるため、既存のごみ処理施設である清掃工場と下水処理施設をバイオマス活用のための中核施設と位置付けているということで、素晴らしい発想だと思います。清掃工場での取り組みとして ①二酸化炭素分離回収（CCU）事業 ②余熱の活用と発電 ③バイオディーゼル燃料の生成 を3本柱としていてコンセプトが明確です。とりわけ①は、平成25年に設置し翌年には隣接した土地に植物工場も設置してごみ焼却施設から分離したCO₂を植物の成長促進に有効活用する画期的な施設で、全国からの視察が相次いでいるということです。ただ、環境行政は億単位の巨額のお金が必要であり、また自治体によって財政事情や産業構造も違うので、いくらいいことでも同じことはできないし、それぞれの自治体の特色を出した取り組みをする必要があります。東大阪市では佐賀市のような広い土地はなく、農業の規模は佐賀と比べ物にならないほど小さいし、CO₂を分離回収してもそれを使う産業がなければ到底採用はできません。また東大阪市では大東市と一緒に最新鋭の焼却炉を持っており、発電効率が日本一ということで毎年電力を売って東大阪だけで約8億ほどの収益を上げていて、さらに佐賀市がしていないプラスチックごみの分別を進めてごみの減量に努めているという特色があります。東大阪市でも自信をもって環境行政に努めてほしとと思いますが、食用油の廃油から燃料を生成していることについては、大いに研究していってほしいと思います。



図⑤ 佐賀市清掃工場

